

# 出向く営農レポート

瀬戸地域 子どもたちに美味しいタマネギを届けるために



瀬戸地域担当  
伊藤昌孝

瀬戸産直友の会では4年前から学校給食用のタマネギ栽培グループを作り、栽培体系を作成し病害虫対策などの情報を共有しています。昨年グループ内でべと病が発生したので、今年の生育状況を確認するため井戸盛雄さんと矢野正博さんの圃場に出向きました。

## 井戸盛雄さんの圃場

早生種のスーパーリニアと晩生種のアトン・ネオアースを併せて約6,000株を栽培しています。

圃場を確認すると、数株がべと病にかかっていました。べと病は暖かくなり雨が多くなると発生します。今年は暖冬の影響が発生も早かったようで防除を提案しました。

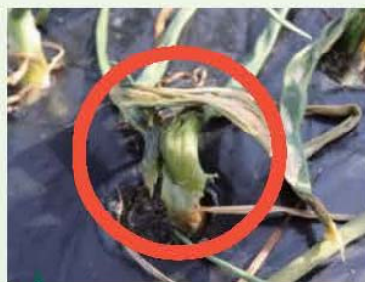
## べと病の防除

- プロポーズ顆粒水和剤 1,000倍 収穫7日前まで 3回以内
- ダコニール1000 1,000倍 収穫7日前まで 6回以内

※プロポーズ顆粒水和剤とダコニール1000は同じ成分であるTPN(テトラクロロイソフタロニトリル)を含むため成分総使用回数(6回)に注意してください。



発生初期に見られる  
白くなった葉



末期になると地際が腐り、葉が倒れ、軽く触れるだけで葉がちぎれてしまいます。ここまで症状が進行すると生長しないため、周りに移さないためにも圃場から除去します。

## 矢野正博さんの圃場

2月上旬にダコニール1000で防除を行っており、べと病の発生は見られませんでした。

すでに発生している圃場があることを伝え、今後も予防防除に努めていただくよう依頼しました。



今年も瀬戸産直友の会から学校給食へ、約6,300kgを出荷予定です。子どもたちに、地産地消の大切さを実感してもらえるよう今後も取り組んでいきます。